

防災情報 2

新しい防災気象情報を どうとらえるか

6月の台風第6号のニュースの中でご覧になった方も多いことでしょう。
今回は、三点確認やお願いがあります。
一点目は、防災気象情報にある「河川氾濫」の「河川」とは指定された河川であり、

近くでは揖斐川のこと、相川は指定されていません。そのため、相川についての情報は、「キキクル」や地蔵橋ラ イブカメラ、国土交通省の「川の防災情報」を参考にするとよいでしょう。「中川」は「用水河川」です。ですから注意すべきは、「大雨」に関する情報です。
二点目は「避難」とは、避難所に行かなくてはいけないということではなく、安全な場所に移動すること

です。それは自宅二階かもしれないし、親戚・知人家かもしれない。垂井町洪水ハザードマップや予想雨量から、自宅はどうなのかを自分で判断する必要があります。
三点目は、避難レベルが2や3の段階で、実際に避難の「訓練」をすることです。例えば備蓄品の確認です。賞味期限が迫っている飲料水や食料品等はありませんか？実際に車で高いところへ行ってみるのも価値あることです。

防災ネットワークOSA

2018年9月、表佐まちづくり協議会内の組織として発足。

会長は表佐まちづくり協議会会長、メンバーは連合自治会会長をはじめ、各自治会の自治会長、表佐小校長など表佐地区各種団体の代表や元代表、防災士等です。

表佐地区住民の安全で明るく住みよい環境維持のために、防災意識を喚起し、互助精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、地震、火災、風水害その他の災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的としています。

これまで、年1回の防災訓練、スイッチ断ボールの設置推進、美化デーにおける安否確認訓練、家族安心カード・防災カードの配布『私たちの防災ハンドブック 表佐地区版』の作成・全戸配布、防災に関する学習会、表佐小4年生への防災教室等を行ってきました。

「防災ネットワークOSA」の「OSA」は「表佐」なのですが、「OSA」には、次のような願い・目標が込められています。

O：お互いに
S：支え合い、助け合い
A：安全・安心

7月～11月の防災関連行事等

8月2日（日）
美化デーでの安否確認訓練
10月18日（日）
垂井町防災訓練（岩手地区）
11月29日（日）
表佐地区防災訓練
※防災ネットワークOSAの会議は奇数月の第2金曜日

防災だより

なめ

第1号
2026年8月1日
防災ネットワークOSA
垂井町表佐1723-1
Tel・Fax22-1011
Mail:osakou@town.
tarui.lg.jp

中面
災害ボランティア
女性の視点
安否確認訓練
備蓄品10選
裏面
新防災気象情報
防災ネットワーク
について
防災関連行事



災害も少なく暮らしやすい土地だといわれた。今、震災を振り返って思うことは、日頃から食料や水、簡易トイレ等を備蓄しておけば発災後の三日間を困窮しなくてもよかったのだと、自助の重要さを痛感する。

※現在では、在宅避難であっても災害対策本部に申し出れば、救援物資を受け取れる可能性はあります。ただし、災害直後は受け取りが難しいと思われます。

ほっ

この防災だよりの題名「なめ」（「ナイ」と読みます）は、古語で地震の意味です。日本書紀や方丈記に出てきます▼「災害列島」と呼ばれる日本です。表佐では、台風による強風や大雨、洪水が心配されます。それ以上心配なのが南海トラフ地震です。表佐地区は震度6強が予測されています▼この防災だよりでは、地震だけでなく、台風や洪水などの災害から命を守るための情報を提供していきます。

阪神・淡路大震災を 経験して1

連休明け（1995年1月17日午前5時46分）の早朝、さあ、そろそろ起きないと思った瞬間だった。床下から突き上げられるようにして起こった激しい横揺れに、「地震や。」と叫びながら、子供たちを助けに階段を駆けあがった。無我夢中で、ハの字に倒れた箆笥の下から子供を引きずりだして屋外へ飛び出した。

こんなことが起こるんや。屋内の床には割れたガラス、瀬戸物が散乱し足の踏み場がない。箆笥の抽斗は飛び出して衣類が散らかっている。二階の家財が階段を塞いでいる。テレビは壊れて情報がえられない。呆然自失して何とかしなく

てはといった気力が起こらなかった。食料を、飲み水をどうするかなど思いつきもしなかった。
夜が明けて辺りが見えだすと、南隣のお宅から芦屋の浜まで見渡す限り建物が倒壊している。阪神高速が横倒しになっているのも見え、惨状から心は恐れ震えた。
余震が続くなか、どこかに避難しなくてはと、子供が通う三条小学校、隣接する山手中学校の体育館を訪ねたが、避難者がごった返しており、震災1日目の夜を自家用車の中で一睡もできずに過ごした。

電気は地震4日後に、水道は4月中旬に、ガスは5月の連休明けに通常に戻ったが、その間、食

防災だより発刊にあたり

「みんなの命はみんなで守る」「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を、少しでももってもらいたい。そしてそれを少しでも行動に移してもらいたい。それがこのたよりの願いです。

発行は8月1日と2月1日を予定しています。

ご意見・ご感想等をぜひお願いします。

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警戒	レベル5 大雨特別警戒	レベル5 土砂災害特別警戒	レベル5 高潮特別警戒
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警戒	レベル4 大雨危険警戒	レベル4 土砂災害危険警戒	レベル4 高潮危険警戒
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警戒	レベル3 大雨警戒	レベル3 土砂災害警戒	レベル3 高潮警戒
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

災害ボランティア1

災害ボランティアセンターとは

災害が起きたとき被災状況に応じて、垂井町（町）との協定に従い、垂井町社会福祉協議会（町社協）が「災害ボランティアセンター（災害VC）」を設置します。被害の

女性の声 1

就寝中に大地震がおきたら そのままの格好で逃げられますか？

心地よいパジャマで寝ることとは、安眠にとつて大切だと思いますが、防災においてはそのままの格好で逃げられないということとは、着替える、下着をつけるなどの行為をすることになります。それは命取りになりかねません。地震は時を選んでではなく、逃げられる格好で寝ることが一番大切な避難準備になると考えます。その際に気を付けて

状況、被災者からの要望（ニーズ）、ボランティア受入体制等をもとに町と町社協とが協議して設置を決定します。能登半島地震のような激甚災害の場合だけでなく、局所的な災害であっても必要と判断され、設置されることもあります。発災後は人命救助が第一となることや開設に向けての準備・調整等が必要となるため、災害VCの開設は、発災から少し時間がたって状況が落ち着いてからとなることが多いです。

ほしいのは、女性らしい格好ではなく、男女兼用デザインのものをおすすめします。あまり報道されていませんが、大きな災害時にはDV、性暴力、性犯罪が起きていると伝えられています。自分の



身は、まずは自分で守らなければいけません。一目で女性とわかるピンク色や花柄などは避けて、目立たない色柄を選ぶことが良いと言われます。小さな積み重ねが、身を守る大切な一歩だと考えて行動することが大切です。



防災情報 1

8月2日美化デーにおいて、 各自治会で 安否確認が行われます

安否確認は、防災訓練の一つです。

- 1 安否不明者を明確にし、安否不明者がいる場合、その情報を、自治会や表佐地区全体で共有して、一刻も早く救助に向かうため
- 2 自治会長や班長の多くは数年で交代することにより、多くの人に安否確認の方法に慣れるため
- 3 近所の人と顔を合わせ、おしゃべりをしてつながりを保つため
- 4 自治会の防災倉庫の備品等になにかあるかをみんなが知り、消費期限等を確認するため

大きな災害が起きたとき、まず心配するのが、家族等が無事かどうかではないでしょうか。そして万が一けがをし



ている人がいて、一人では助けられない場合、自治会の人たちや表佐の人たちがいたらどんなに心強いでしょうか。また救急薬品や機器があれば、助けられる可能性も高くなります。災害対策本部に連絡すればさらに多くの人の応援が集まり、使える機器が増えます。

そのためには、自治会長さんを中心とした役員さんが重要な役割を担うことになりま

つて、安否確認がスムーズにできるようにするのはないでしょうか。



災害への備えは自宅で「モノ」をそろえることだけではありません。「ヒト・モノ・カネ・コト・情報」が必要です。「ヒト」は近所のつながり、「コト」は安否確認の練習、「情報」は安否不明者の情報をいかに速く、自治会員や地震対策本部に伝えられるかです。

多くの人が家の火災保険や車の任意保険にはいつていらつしやることでしょう。この安否確認訓練もいざというときの「保険」です。

※安否確認は災害用伝言板（web171）を利用します。インターネット上で、安否等の情報をテキストで登録・確認できる伝言板です。



能登半島地震
珠洲市での活動

防災ネットワーク 研修内容の紹介1

これまで、防災ネットワークOSAでは、20回をこえる研修を行ってきました。その一例をこの欄で紹介していきます。

備蓄急げ 南海トラフ発生後、日本中から真っ先に買い占められる備蓄品10選（そなエコラボ参照）

1 食品用ラップ

断水した環境下で、いろいろな用途にも使用され圧倒的な万能さを誇る。

2 乾電池

特に単3乾電池と単4乾電池は、生き残りをかけた争奪戦となる。

3 多機能防災ラジオ

災害発生直後、スマホが使えなくなり、最も入手困難な幻のアイテムとなる。

4 ガソリン

車は車中避難やエアコン、充電

5 カセットボンベ

お湯を沸かし、暖をとる貴重な火力源。

6 飲料水

店からは一瞬でなくなり、自販機にも人が殺到する。

7 調理不要の保存食

弁当やおにぎりはスーパードリンクからすぐなくなる。封を切ったすぐ食べられる自分の好きなものや、子どもにはお菓子は必需品。

8 トイレレットペーパー

国産のもの4割は静岡県で作られている。店には大量の在庫はない。最低でも1ヶ月分以上を。

9 ウェットティッシュ・ティッシュペーパー

風呂のない生活では必需品。大判のものを用意。

10 モバイルバッテリー

過去の被災地では、数少ないコンセン

